



TITLE:

生駒山頂上より北東を望む

AUTHOR(S):

槇山

CITATION:

槇山. 生駒山頂上より北東を望む. 地球 1931, 16(2): 94-94

ISSUE DATE:

1931-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183937>

RIGHT:

○生駒山頂上より北東を望む（圖版第三版解説）

手近に見える斜面は生駒山の北東面で、中央の圓錐形の木の繁茂した丘は讃岐岩式の黒色玻璃質の火山岩である。生駒山は閃綠岩より成る牛背形のナガラカな山で、小さい浸蝕谷を缺いてゐる。其狀は手近の斜面に良く撮影されてある。其單調を破る火山岩の小丘も良く表はされてある。大阪人の信仰を特に集めてゐる寶山寺は此小丘の南東の脚部に位置し斜面の上にあるが圖には見られない。前方斜面上の電線列はケーブルカーに屬するもので寶山寺前より頂上に達するもの、右に見える二條の鐵路は寶山寺前と山麓を連絡するケーブルカーの軌道で日本唯一の複線ケーブルである。山麓の人家群は生駒町で其一端は登山道に沿ひて寶山寺前まで延びてゐるのが見られる。生駒町以北の生駒山の中腹以下は花崗岩の地質、圖では前方斜面の後方に小起伏に富み、所々に白い崩れを見せてゐる部分である。山麓には南北に長く延びた谷が見られ多くの村落、田地、小丘が認められるであらう。此地帯の水は二に分れ一は南に流れ、一は北に流れる。其分水界は低地帯中にあり、圖の略中心に當る地點である。南なるは生駒川、北なるは天ノ川と稱せらる。生駒、天ノ兩川の低地帯の背後には花崗片麻岩の山地があり、其前面は急崖をなし斷層崖であるが、背面は緩斜して上に洪積層がある。此山列を北に（圖では左に）追ふと稍遠方に小高い山地が見える。即ち大和、山城の國境にある磐船の花崗岩の丘陵である。右手遠方に見える平地は山城綴喜郡、木津川流域で、山城盆地の南端である。遠方の山は右端最高所は鷲岑山の一角である。綴喜の平地と手前の前記斷層崖との中間は洪積層の丘陵地であるが、中に一線を認めるのは富雄の斷層崖である。本誌六卷二號の拙文「生駒山脈生成論」を参照せらるれば稍詳細が解せられるかと思ふ。（横山）